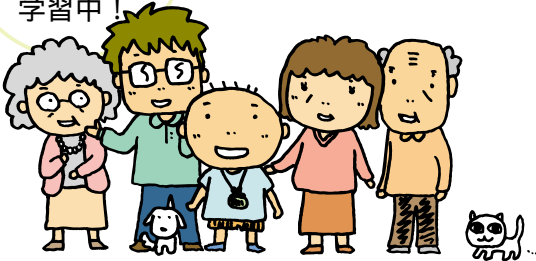


矢口家でも
おかねについて
学習中！



「金融教育公開授業」in 東京 現場レポート

～ 下北沢商店街にお店を開こう！ ～

日本銀行情報サービス局が事務局を務めるマネー情報知るぽると 金融広報中央委員会は、中立・公正な立場から金融経済情報の提供と金融経済学習の支援を行っています。知るぽるとのぼるとは「入口」や「港」という意味です。HPアドレスは、<http://www.shiruporuto.jp/> です。

世田谷区立代沢小学校における公開授業に向けた取り組み

学校での金融教育の推進を目的に金融広報中央委員会が今年度から始めた「金融教育公開授業」。昨年七月の名古屋市立御田中学校を皮切りに全国一九都府県、二一校・園において開催され、当年度分は終了しました。今回はこれらのうち、昨年十一月二十五日に東京都世田谷区立代沢小学校で行われた公開授業に関する取り組みをご紹介します。代沢小学校は、明治十三年に創立され一二六年の歴史を持つ由緒ある小学校で、「若者の街」、「学生の街」として有名な下北沢に隣接しています。偶然ですが、当委員会の増永嶺会長の母校でもあります（小学校一年～三年の途中まで在籍）。

公開授業での狙いと工夫

公開授業は、「下北沢商店街の人気の秘密を探ろうー下北沢にお店を出してみようー」というテーマで行われました。指導教

諭の新貝朗先生は、テーマの狙いについて、商店街への出店計画を話し合うことを通じ、お店を開き、経営していくことの難しさを知り、お金を有効に使うていく大切さに気付くこと（問題解決能力）、出店計画を練ることを通じ、起業の一端にふれ、今後の生き方を考えること（自己の生き方・キャリア教育）、商店街の学習を通じ地域に愛着を持つこと（関心・意欲・態度）の三つを挙げました。当日の公開授業は一時間弱の短い時間でしたが、新貝先生は公開授業に向けて約半年間をかけ入念に準備。指導に際しては、「児童に向け一方的に知識を与



授業の様様

えても、頭を素通りしてしまうおそれがある。商店街でのフィールドワークと実際にビジネスに携わっている方々から伺ったお話を結びつけ、大切なことがきちんと児童の頭に残るよう努めた」と説明してくださいました。

地元商店街からのバックアップ

また、地元商店街（下北沢南口商店街振興組合）の方々が、今回の取り組みを強力にバックアップしてくださったことは幸いでした。とくに吉田園吉理事長は、自ら講師を務めたほか、



商店街調査の様様



公開授業の様相

フィールドワークに向けた商店街との事前交渉など、様々な場面で「尽力くださいました。校長の小林巧先生も、終了後、「地元商店街の方々と学校との関係強化は、今回の公開授業を通じて得られた最大の成果の一つ」と述べておられました。

公開授業に向けた具体的な取り組み

児童たちの公開授業に向けた取り組みについて少し詳しくみてみましょう。最終目標は、四年一組二一名の児童たちが四つのグループに分かれ、考案した出店計画を自らパソコンを操作しながら発表することです。計画のフィージビリティについて、吉田理事長と昭和信用金庫の成島三郎本店长による「厳しい」評価が待っていますので、単なる夢物語では許されません。

九月上旬、児童たちは商店街に繰り出し、どのような店が繁盛しているのかなどを調査しました。そして吉田理事長からビジネスの面白さなどのお話を伺

い出店イメージを膨らませた後、店員、お客さんなどへのインタビューを行いました。後口新貝先生は、「子どもたちがあまりにずけずけと質問するので、引率者として少々気恥ずかしかったが、皆さんとても親切に対応してくださった」と回顧されていました。店のイメージが形作られた後で、アイデアをより現実的なものにしていくため、講師の方々から、「商売の厳しさや経営上必要なこと」、「お店を開くときの注意」、「信用と責任」などのお話を頂き、当初の出店計画から軌道修正を図りました。

発表日の模様

公開授業当日、たくさんの保護者や関係者が見守るなか、児童たちは緊張の面持ちで発表に臨みました。発表はグループごとに児童が一人ひとり担当部分を説明し、その間別の児童がパソコン操作を行うという形で進められ、発表が終わると、他のグループとの質疑応答が行われます。各グループが発表したの

は、カフェ、サッカーショップ、小物雑貨店、古着・洋服・子供服の出店でした。ネーミング、コンセプト、オリジナリティーといった出店の勘所が、パワーポイントのプレゼン資料に示されます。児童たちが整然と説明する姿は、事前の入念な準備と高い理解度をうかがわせるものでした。

質疑応答では、「店を明るくするために窓を大きくしたいと言っても、そのための工事代が余計にかかるではないか」との質問に対して、「工事代は一回しかからないが、光熱費はずっと減らせる」との大人顔負けの回答が出され、参観者から驚きの声がかかる場面もみられました。吉田理事長ら審査員の方々もさすがに脱帽といった様子でした。

終了後、吉田理事長は、「夢を持つことの大切さ、ビジネスの厳しさ、信用と責任の重要性。この三つを学んで欲しい」と思い今回の取り組みへの協力を決めました。今日の発表を聞いて、その思いが伝わっているのが分かります。本当にうれしい」と述べておら

れました。また、成島本店长は「自分が小学校四年生だった頃を振り返るとこのような教育を受けた記憶はなく、こうした指導を受けることができた子供たちは本当に幸せ」と話されました。小林校長先生からは、「今日の発表やここに至るまでの活動を見て、金銭教育研究校をお引き受けして本当によかったと感じている。金融広報委員会は、ぜひこうした活動の一層の拡大に取り組んで欲しい」という励ましのお言葉を頂きました。

金融教育公開授業は来年度も継続する方針

他の多くの学校関係者からも同様の応援の声を頂いており、「金融教育元年」の主力事業であった金融教育公開授業、初年度は成功させることができたように感じております。皆様のご期待に添えるよう内容の一層の充実を図り、来年度も本事業を継続する方針ですので、引き続きご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。